

(様式1)

平成 24 年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 131	提案機関名 全農神奈川県本部
要望問題名 豚の精液保存について(新規)	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 豚の精液保存については養牛と違いストックする容器及び供給基地もない状況となっています。 従って、優良雄豚が亡くなると、その精液は供給できなくなります。 よって、今後凍結精液によって、優良精液(種)の保存並びに供給基地の設置を畜産技術所に開設してもらいたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備 考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部所	企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) ブタ凍結精液を用いた人工授精の確立～凍結・融解・人工授精の最適化～、大分県農林水産技術指導センター・広島大学、2011		
対応の内容等	優良な遺伝資源の保存は畜産経営の安定に必須な事項であり、そのための凍結精液の利用は極めて有効な技術であると認識しております。豚の凍結精液は、受胎率の低さ(約50%)、一腹産子数の少なさ(5頭程度)故に普及していませんし、当所でも現在は研究を中止しております。 一方、近年広島大学と大分県により問題点を解決できる新たな凍結・融解・人工授精の技術が開発され、特許が取得されております。この技術が普及すれば、凍結精液の保存も可能と考えられます。 しかしながら特許使用の問題や県内養豚場で飼養される種雄豚の精液を対象とした場合の衛生上の問題等、将来的な展望はともかく、少なくとも数年内の供給基地の設置は、極めて困難と考えられます。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備 考			